

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム野の花独自の運営理念をつくり玄関やホール内の目につく箇所に掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングを始める前に職員と一緒に声を出して唱え確認している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	目に付きやすい場所に理念を掲示したり、チーム会を始める前に確認のため全員で唱えるようにしている。	○ 今後は家族や地域の人々にも説明し理解してもらえように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩をしている人や通りがかりの人が気軽に声かけしてくれる。自宅で不要になったマッサージ機やピアノを提供してくれたり、使わなくなったからとオムツをたくさんもってきてくれたりと大変友好的で感謝している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し回覧板が回ってきたり、敬老の日は紅白まんじゅうや赤飯を配ってもらったり舞踊のボランティアに踊ってもらった。また地域の防災訓練に参加し、防災昼食も一緒に食べさせてもらった。また学童の生徒が慰問に来て一緒に唄ったり、肩たたきなどして過ごす機会もあった。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者が将来不安を持ち近くに施設ができたから安心とよく見学にきたり、孤独な人が淋しいと話しに来られたりする。そんなときは暖かく迎えお茶や夕飯をお裾分けして、話を聞いてあげると喜んで頂けることが少し地域に貢献できているかなと思う。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設したばかりでまだいろいろな箇所に不備な点があるため今後は少しずつ充実していきたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に自治会長が参加し、参考になる意見や提案など出され大変協力的で日々の介護に役立たせているし、安心して過ごすことができる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	西地区包括支援センター主催の研修に参加し、親交を深め市町村の取り組み等を理解しサービスの質の向上に役立っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在必要な人がいないためそのことについて職員と話し合うことがなかった。パンフレットは整備してありいつでも読めるようにしてある	○	今後、ミーティング等で取り上げ職員全員が知識を持てるようにしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待の防止や禁止について話し合う機会がありいかなる虐待も見逃さないように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族等が不安に思っていたり、質問があれば安心できるまで丁寧に説明し納得して契約、解約を行っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、入居者で話し易い職員に向けてホームや他の入居者に対して不満や意見等を遠慮なく発しているが、改めるは改め、不可能なことは納得いくように話している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等で生活の様子や体調など報告している。また小遣いが不足する出納帳を見せて補充してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽に話せるように常に信頼関係を保てるように話し合い、意見や不満等があれば何でも聞き、家族の希望が正確に通じるように申し送りノートや伝言で行う。さらに全員に的確に伝わるようにメモを貼りだして見落としがないようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に介護に携わっている職員の意見、提案は貴重な物として受け止めているので適切と思われることはすぐに反映実行している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができるように勤務調整を行っている。例えば検査が何時間もかかる場合家族の依頼を受け職員を一人多く配置したり、外出をするときは多く配置している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所開設して職員の入れ替わりはないが、今後なるべく最小限にとどめていけるように、職員にも居心地のいい場所に感じてもらえるよに働き易い環境を提供していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだ限られた職員にしか研修に行ってもらっていない。呼びかけても参加しないため指名して行ってもらうようにしたい。	○	医療関係の研修があれば看護師というように適材適所でその人に合った研修を受けて見聞を深めて欲しいと思っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と協力し合えるように相談したり、話し合ったり、協力し合えるように行き来している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを感じないように楽しい職場になるように常に運営者の開設に当たっての趣旨(楽しく仕事はしないと利用者に優しく接しられない)を話したり、悩みは気軽に話して欲しいと伝えている。運営者は職員と距離をおかないようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人が自主的に利用者が楽しく快適に過ごせるために働けるように見守っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	早く安心してもらえるようにまた信頼関係を築くためにも初期は特に本人の話を聴いて、本人の性格や考え方を理解できるように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは電話で相談を受け、それから見学に来て頂きそこで家族の状況をよく聴いてあげ安心してもらえるように話すように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聴いた上でより適した介護サービスがあれば教えたり、紹介したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が不安ならばばらく滞在してもらったり、部屋でゆっくりくつろいでもらったり、職員が他の利用者と架け橋になりしばらく付き添ったりして徐々に馴染めるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事をしたりゲームをしたり話をしたりして共に喜怒哀楽を共感できるように行動している。利用者から学ぶことが多い場面場面で知恵を借りその方の居場所や生き甲斐を見つけ出せるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から大事な家族を預かっているという気持ちで接し、安心して任せてもらえるような信頼関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに入居することによってより良い家族の絆が深められるように楽しく生活している様子を伝え安心してもらい、また来てもらえるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚や知人が尋ねてきたら本人も職員も歓迎し、楽しいひとときが過ごせる環境を作れるように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話を重んじ、和やかな雰囲気を壊さないように見守っている。またその関わりができるように職員が架け橋になり交流が保てるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係が続けられる様に、近況を電話等で尋ねて交流を維持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きな事や趣味、得意な事などを把握し自由に生活できるように環境を整えている。自分のペースで自由に暮らせるように配慮している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を把握し、その人らしい暮らしや尊厳を支えられる支援ができるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとり能力も体力も違うためその人に合った生き方ができるように最初に家族から情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントなどを用いて個々の情報を集め、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえ、利用者や家族等とも相談しながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施機関を明示して、その期間が終了する際には見直しを行い、状態変化に応じて随時見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映するために、利用者一人ひとりの特徴や変化を個別に記録している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとり生活してきた環境が違いそれぞれが違う要望があるため、その本人に合った支援ができるように対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日常的に近辺の散歩や買い物やドライブ、外食など積極的に外出している。また自治会に入り地域の行事等に参加し、ボランティアも歓迎し楽しい環境を作れるように配慮している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修等で他のケアマネジャーやサービス事業者に積極的に情報を得る努力をしている	○	今後他にどんな適したサービスがあるか外にも目を向けて支援できるように検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの主催する会合に積極的に参加し情報を得ながら、介護支援に反映できるように協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診して、心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる医療機関を確保し、適切な指示を得られたり、医療を受けられるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行なわないように配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取り組みを日常的に行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のきまりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせることを優先に支援している。気分転換や機能の活性化のために職員の誘導の元、散歩やレク活動等は行うが、参加したくないことは本人の選択に任せている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	不適切な服装等は助言するが、本人の希望に添った身だしなみができるように支援している。家族や本人の希望で理美容は職員が行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で食べることが一番楽しみなものになるように、献立や言葉掛け等に配慮している。食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコール性アルツハイマーの利用者がいるためアルコールはみんなの前で出せないが個人的に用意して部屋で飲んでもらっている。一人ひとりの好みを把握し、嫌いなものは下げないようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声かけや誘導等で失禁をなくし、排泄の自立に向け支援している。一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表等で把握し、失敗せず気持ちよく過ごせるように取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	高齢者は面倒臭いためか拒否されることが多いが、最低一日置きには入浴して身体の清潔を保持してもらっている。入る前は面倒臭がっていても「あー気持ちよかった」と喜んでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分のペースで自由に部屋で休息されている。昼間の長い時間の就寝は昼夜逆転になるため時間を見ておやつ時間等に声かけしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみ事や役割を見出せるように、場面づくりや環境作りを行っている。(テレビ番組、新聞、園芸、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、お膳拭き、テーブル拭き、体操指導等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理ができるように、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援しているが、金銭管理が不可能な方はトランプの元になるため小遣いを預かるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近辺に公園があり天候が穏やかな日には下肢筋力を鍛える目的と気分転換のために本人の体調や気分を重視しながら、極力外出するように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	観光地や名所や資料館など過ごしやすい季節には遠出して楽しんでもらうように支援している。また家族との外出も自由に行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に連絡が取りたいときは電話を掛けることができるし、手紙のやり取りも自由に読めない人には代理で読んでもらい喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出入り自由で24時間どんな時間でも訪問してもらい、本人と共に訪問を歓迎し、居心地よく過ごして頂けるように対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止についてミーティングで話したり、理解を深めるため日常的なケアで話しをして理解を深め、身体拘束のないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の家族等が不安に思っていたり、質問があれば安心できるまで丁寧に説明し納得して契約、解約を行っている自由な暮らしを支え、利用者や家族に心理的圧迫を与えないように、なるべく鍵を掛けない配慮をしている。やむを得ず鍵を掛ける場合は、その理由を家族等に説明している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者個人個人のプライバシーを理解し、配慮していつでも所在の確認と安全確認を行うように対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を伴う物品は持ち込まないように家族には依頼するが、必要なものであれば職員がたびたび安全であるか確認をして対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	地域の防災訓練で火災や人工呼吸等の知識を学び、その他の事故に対しても日々の介護やミーティングの中で事故防止のための話をしてそれに向けて取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティングの中では急変時の対応について話し合い、マニュアルを作成している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会に入会しているため地域の方の協力が得られやすい。10月28日には地域の防災訓練があり利用者も参一緒に加させてもらい災害対策に努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時や電話等で事ある毎に報告し、リスク対応に努めている。リスクがあっても普通に暮らせるように配慮しながら支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや様子観察を徹底し、早期発見早期対応に努め、職員間の情報も速やかに共有できるように対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、医師の指示通りに服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認を行い、便秘予防のために繊維のある食物を献立に取り入れたり、日常的に体操や散歩などで運動をして便秘予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	習慣が身に付いている利用者は自分で口腔ケアが行えるが、忘れたり怠慢な場合は職員が声かけして誘導し、必要な方は介助している。夕飯後は必ず行っている。	○	今後は毎食後の徹底に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態や飲食量を把握し、その人に合わせた量を摂取できるように配慮している。過剰による体重増加や咀嚼の具合等の配慮も行っている。高齢者は脱水症状を起こしやすいため食事以外におやつ時間を設け水分の確保を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	病院と連携し、予防注射や定期的な検査を行い、対応策の指示を仰ぎ実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員の手洗い励行や調理器具の衛生的な管理を行い、新鮮な食材を使用するようこまめに買い物に行くようにしている		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先までに一年を通して季節の花を鉢植えして、楽しめるようにしている。建物周辺は垣根等を植えず誰からも分かりやすいように、また明るい太陽の光が差し、開放的なつくりになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間は近くに保育園がありにぎやかな楽しい歌声や笑い声等が聞こえ、夜は静かな住宅地に位置するため安心して就寝できる。室内には至る所に季節の花を花瓶に差したり、季節、季節で収穫された食べ物や木の実などをテーブルに飾り季節を感じ取ってもらえる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になりたい人は自分のペースで自室に行き休まれたり、ホールのソファでくつろいだり、気の合った利用者同士で各部屋で話こんだりして思い思いに自由に過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には家族に使い慣れた馴染みの家具や好みの物を自由に持ってきてもらいたい旨話している。、家族の写真や三味線や大正琴など弾かれなくても眺めているだけで落ち着かれ、それぞれが快適に生活できるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除時には窓を開け換気できるように支援している。建物は夏涼しく冬暖かく過ごせる構造で作っており、換気や臭気も自動的に可能なシステムを取り入れている。温度調節は職員が感じる暑さ、寒さではなく高齢者の立場に立って調節できるように配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つまずきで転倒等の事故を起こさないように、段差をなくし壁づたいに手すりを取り付け、なるべく物を置かずスムーズに歩ける様な環境をつくり、安全、安心できるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を起こさないようにタンスには衣類の表示をしたり、各部屋には表札、洗面所やトイレにも分かりやすい表示を掲示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホールから畑が見え、夏にはスイカが実を付け大きくなっていくのを楽しみに眺められていた。季節季節の野菜の種をまき、成長していくのを日々楽しまれている。利用者が草を引いたり、間引いたりして世話をしてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①バスの路線沿いにあり利用しやすい
- ②経験豊かな年配の職員も採用し、昔の歌や状況をよく知っているため一緒に歌ったり話を展開することができる
- ③家庭的な雰囲気が入居者一人一人に目が行き届き落ち着いた生活ができる
- ④自治会に入会し地域の人と交流する場があったり、ボランティアも多く招き楽しく過ごすことができる
- ⑤かかりつけ医や専門病院も近辺にあり、医療の早急な対応が家族に代わってでき安心できる
- ⑥利用料金も利用しやすい金額で設定してある
- ⑦ドライブ等の外出や外食も計画して楽しみになっている